

わたしの **効果倍増!** 教材活用術

活用型の授業を創る

〈思考力・判断力・表現力を明確にした授業の実際〉

東広島市立西条小学校 奥井京子

活用する力の育成を目指して

本校は、学習指導要領の改訂に伴い、平成20年度より、活用する力の育成を目指して校内研究を進めてきました。特に、21年度は、タイトルの言葉を研究主題として、活用する力を育成するための授業とはどのようなものかを明らかにしようとしてきました。その学習を、「活用型学習」と呼んでいます。

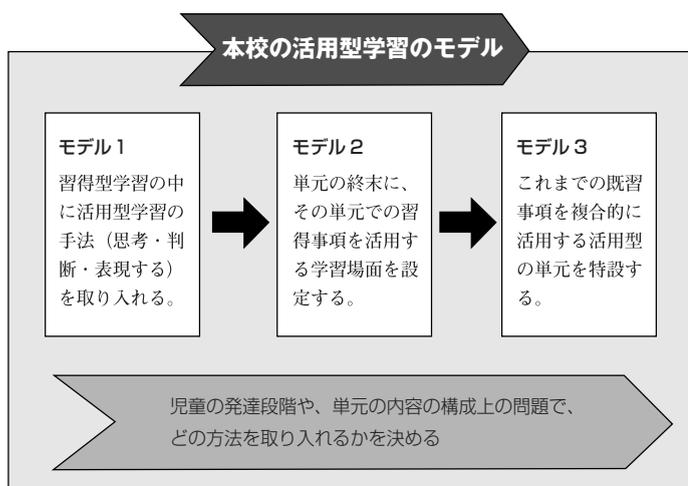
本校の「活用型学習」

本校では、活用型学習を「習得した基礎的・基本的な知識・技能を活用して問題（課題）を解決する学習」と定義し、この学習に次の二つの条件をもたせています。

- 【条件①】学習の中に必ず活用すべき既習・習得事項が存在すること
- 【条件②】問題解決の際に、思考・判断・表現する児童の姿が見られること

児童は、この学習の中で既習・習得事項を活用して問題解決をするわけですから、基礎

的・基本的な知識・技能の習得をより深めることができます。また、思考・判断・表現することを繰り返し行うことで、思考力・判断力・表現力も身につけることができます。本校では、活用型学習を単元（題材）構成の中に位置付けるために、三つのモデルを設定しています。



これらのことからわかるように、本校の活用型学習は、「習得・活用・探究」の三つの学びのスタイルの中の「活用」を指すものではありません。

たとえば、各教科の学習において、基礎的・基本的な知識や技能をしっかりと習得させたい学習においても、活用型学習の二つの条件を満たした学習を展開することが大切であると考えているのです。

本校では、日常行われている授業そのものを活用型の学習に切り替える指導者の意識変革こそが、児童に活用する力を身につけさせることを可能にするという思いをもっています。

「活用型学習」を行うための手立て①

表現力のスキルや、児童が目指す表現力の具体を明らかにする

本校では、授業の中で児童が表現力を働かせる際に、次の二点を大切にしています。

- 相手意識をもち、わかりやすく話したり書いたりすること
- 学習のねらいや目的に合わせ、的確に整理しまとめること

活用型学習を成立させるために、この二点を「話すこと」と「書くこと」の両面から具体化することで、児童に表現力をつけようとしているのです。

今回は、巻頭特集『「活用型学習」をもう一度読む』を受けて、学校現場での具体的な取り組みをご紹介します。巻頭特集で解説いただいた角屋重樹先生が指導されている、東広島市立西条小学校の実践です。

活用型学習では、児童がはつきりと既習・習得事項を活用しながら、意欲的に学ぶことができる課題や問題を用いることが大切です。

「活用型学習」を行うための手立て②
思考力・判断力を育成するために、課題・問題・教材を工夫する

●児童の考察（第5学年 理科）

相手意識をもってわかりやすく話すスキルを身につけさせるために、朝の活動で言語技術を身につける学習を行ったり、全ての教室に話型を掲示したりしています。
 また、目的意識をもって的確に整理しまとめることができるようにするために、ノートを取り方の具体的提示、算数用語・科学的用語等の確実な習得、的確に整理しまとめられた板書の工夫等を行っています。そして、本時の授業の中で何をどのように書かせるかを明らかにして授業を行うようにしています。
 本校の研究教科の一つである理科では、どの学年においても実験等の考察の書き方を取り上げ、児童に的確にまとめる方法を身につけさせようとしています。



●第6学年の問題
 単元名「情報の整理と活用」(11月)
 ～「速さ」表やグラフの見方「小数の四則計算」と保健指導を組み合わせせた単元～

<問題>
 学校で「よりよい生活」について学んだかきさんは、「最近体重が増えたなあ。」と言っているお父さん(38歳)のことが心配になりました。そこで、次のようなこと(左写真参照)を調べ、ウォーキングでのダイエット計画を立てて、お父さんと一緒にウォーキングすることにしました。
 時速5kmで歩くとすると、お父さんはどれだけの距離を歩けばよいのでしょうか。

また、教材の提示方法として、思考力が働くような、比較・関連付けがしやすい方法が求められます。そして、児童の主體的な学びを促すために、児童の思考の流れに沿った学習課題が設定される必要があります。
 本校の研究教科の一つである算数科では、本時に用いる問題に関して、単元で学んだ習得事項を活用して生活に根ざした身近な出来事を解決する問題を作成するようにしています。また、クイズ形式で提示したり、学校生活の中の環境をモチーフにして問題を組み立てたりといった工夫をしています。

発問・切り返しの工夫

- 思考・判断を促すための焦点化された発問
- 児童が思考・判断する際の本質に切り込む発問
- 授業中の児童の反応や思考に沿った切り返し

<発問の例>

既習・習得事項を問う発問

今までに学習した中のどんなことを使えば、今日の課題を解決することができるのでしょうか？

教材同士の関連を問う発問

前回に学んだ教材文と関連付けると、今日の教材文の中で大切な(重要な)言葉や文はどこでしょうか？

比較させるための発問

二つの問題を比べて、似ているところ・同じところ・違うところはどこですか？

思考の根拠を問う発問

このように考えた理由は何ですか？ 何の考えを用いて解決したのですか？

物事の間連を問う発問

実験結果は、予想したこととどこがどのように関連付けられますか？

「活用型学習」を行うための手立て③
思考力・判断力を育成するために、教師の発問・切り返しを工夫する
 この手立てでは、児童に問題の本質に気づかせ、思考力や判断力をしっかり働かせながら学習することを促すための重要な工夫だといえます。そのためにも、物事の本質に切り込むような発問や切り返しをする必要があります。また、学習の状況や反応に応じて、臨機応変に補助発問を行ったり、児童の意見に切り返したりする等の働きかけが求められます。

「活用型学習」を行うための手立て④
**思考力・判断力を育成するために、
 学習形態を工夫する**

学習形態を工夫することは、人と人との関わりの中で思考したり判断したりする学習を深めるための重要な要素です。また、言語技術を駆使して「表現する」「説明する」「伝える合う」「話し合う」等の活動を行うため、表現力を高めることもできます。

学習形態を工夫するにあたっては、学習の目的に応じて、**集団思考・ペア学習・グループ学習・自力解決等の学習形態を効果的に組み合わせることが大切だと考えます。**

国語科の学習では、自分の書いた意見文等をグループやペアで読み合わせ、感想を述べ合ったり、比較検討し合ったりする学習が多く見られます。

左の写真は、第6学年の単元「作家と作品をかかわらせて〜宮沢賢治〜」の一場面です。児童は、教科書の教材である宮沢賢治の伝記を学習した後に、詩「雨ニモマケズ」を学び、宮沢賢治の生き方とこの詩の意味やメッセージを自分なりに解釈し、文にまとめ、グループで互いの文を交流し合っています。



自力解決の学び

- 自分と向き合って思考力・判断力を働かせながら問題解決する
- 根拠の伴った自分の考えをもたせる
- 最終的に、自分の力で問題解決できる児童をめざす



ペア学習・グループ学習の学び

- 集団思考の前に、互いの意見を確かめ合う
- 問題解決につまずいたとき、他者の考えを聞いて参考にする
- 話しやすい・活動しやすい人数での学習を行い、個々の児童の主体的な学びを促す



集団思考の学び

- 他者の意見をよく聞いて考え理解し、よりよい考えを判断し選び出す学び
→**思考力・判断力の育成に繋がる**
- 自分の考えを目的に沿って人にわかりやすく伝える経験→**表現力を高める**



本校の活用型学習を導入しての成果

活用する力を育成するための学習を意識的に取り入れてから、児童の実態に変化が見られています。

本校では、2年間にわたって、活用型学習で身につけた力を見取るための自作テストを実施しています。

実施当初、自作テストの結果は、自作であるにも関わらず非常に低いものでした。なぜならば、作成側の教師自身も児童も、活用することの意味を十分理解できていなかったのではないかと考えます。

しかし、前年度の最後の自作テストの結果は、私たちが期待していた70%の正答率を上回るものでした。

また、「全国学力・学習状況調査」のB問題の結果も、年々上昇しています。

本校が全校児童に実施している「学習に関するアンケート調査」においても、「問題解決に向けて見通しをもって学習する」「自分の考えが明確になるように文章構成や文末表現を考えたり工夫したりする」「問題を解決するとき、これまでに学んだことを使って解決しようとする」「授業で学んだことを生活場面で使おうとする」といった項目で、ポイントが上昇しました。

私たちは、本年度も、活用型学習を基にして、言語活動の充実を図りながら児童の活用する力を伸ばしたいと考えています。